令和6年度学校評価報告書

令和6年3月28日

北海道教育委員会教育長 様

北海道倶知安高等学校長 佐々木 真 一

次のとおり、令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(学校教育目標) ふるさとを思い、多様の中で、力を合わせ、自ら進んでつくりだす生徒を育てる (スクールミッション)	
1 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成	
2 キャリア教育を通し、自己のキャリア形成により、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成	
3 地域の学校として、地域の教育活動を活用した教育活動等を通して、豊かな心と社会性を備えた地域から信頼される生徒及び将来地域を担う人材の育成 (育成する資質・能力)	
1 自ら困難な課題に果敢に挑戦し、グローバル社会を生き抜くための課題発見力や課題解決力を身に付けた生徒の育成を図る。	
2 多文化社会の中で他者や自然を尊重する心を持ち、地域やふるさとを愛し、グローバルな視点から自律性や協働性を持って行動する生徒の育成を図る。	
3 夢や目標を持ち、その実現に向けて主体的に取り組む生徒の育成を図る。	

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校教育目標	前年度からの学校教育目標等の見直しを行ってきたが、日々の教育活動と結び付けて取り組むことについては、まだ不十分といえる。	学校が考える改善方策をもとに、様々な教育活動に目標が位置づけられ、生徒の資質・能力が総合的に育成されるよう期待する。
改善方策	学校教育目標等の位置づけがより明確になるよう、グランドデザインを作成し、日々の教育活動に反映できるようにしたい。	
学習指導	家庭学習の時間が十分に確保されていない。主体的に学ぼうとする資質・能力の育成は課題である。	家庭学習については、生徒自らが、高校生として、自分を律し将来の目標に向かって日々努力できるように育成することを期待する。
改善方策	ICTの活用等により、家庭でも学習する機会が確保できるような工夫を行いたい。	
生徒指導	生徒の評価に比べて教職員・保護者の評価が総じて低い、どのような生徒を育てるべきなのか、目標をより明確化する必要がある。	いじめ問題への組織的な対応や悩みや不安に相談できる体制について、生徒の評価が高いことから、現行の取組は評価できると考える。
改善方策	SNSのトラブルを未然防止するためのプログラムのほか、対人関係の構築に必要なスキルトレーニング等の取組を実施していく。	
進路指導	総合的な探究の時間（ドリカムプラン）について今年度より見直しを図ってきたが、次年度以降も地域課題について学び、自らのキャリアを結び付けていく探究学習を充実したい。	生徒の進路実績は素晴らしいものがあり、今後も、生徒の夢を実現させる指導の継続を期待する。また、探究活動の充実により、生徒の視野を広げ地域への理解や愛着を深めてほしい。
改善方策	高校3年間の見通しをもって自ら課題を設定して解決していくことができるよう、探究学習の改善を図っていく。	
健康安全	引き続き健康・安全面への教職員の対応及び生徒が身に付けるべき資質・能力について高めていく必要がある。	防災教育の中で、避難所指定になっている学校の対応や生徒の自宅がある町村の防災対策等を学ぶ機会を一層充実させることを期待する。
改善方策	引き続き健康・安全面への教職員の対応及び生徒が身に付けるべき資質・能力の育成にむけて取り組んでいく。	
学校運営	P T Aや地域との連携協力体制を築き、P T Aや地域の力を活用した教育活動を推進する必要がある。同時に働き方改革への取組は今後も重要となっている。	今年度はP T Aや地域との連携による活動が多数あったように思える。学校の取組を多くの方に知ってもらうことで、協力や支援体制が構築されやすいので、今後一層の努力を期待する。
改善方策	学校運営協議会の設立により、地域との連携を深めることができるようグランドデザインに沿った学校運営に取り組んでいく。	
公表方法	学校評議員会、P T Aだより、学校ホームページ等で公表する。	

3 添付資料 自己評価アンケート（教職員・保護者・生徒）の集計結果